

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572807105	
法人名	羽後町	
事業所名	グループホーム やまびこ	
所在地	秋田県雄勝郡羽後町下仙道風平97番地1	
自己評価作成日	令和4年10月26日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	令和4年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自治体の運営であり、同敷地内にデイサービス、ショートステイ、特別養護老人ホーム等の事業を行っている複合的サービス拠点「高瀬ケアセンター」の事業所の一つになります。敷地の周りは豊かな田園風景と山々に囲まれており、四季の移ろいを間近で感じられる恵まれた環境の中で運営されております。また、併設されている地元の公民館では、地域行事や町の集いも開催されるなど地域交流の場となっています。入居されている方々も全員羽後町の出身で、地域に根差し、地域や人との繋がりを感じる地の利を生かした施設です。お互いの尊厳を尊重して敬意を払う、その思いをスタッフも共有しながら心地よい居場所を作り、当たり前の変わらない自分らしい暮らしを継続して頂けるように日々お手伝いさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

GH「やまびこ」は自治体運営の複合的サービス拠点「高瀬ケアセンター」の中にあり、利用者は地区、地域の方々、職員も地元の出身者が多く、いわゆる「お互いの顔が見える」関係性であり、地域みんなが支えあう心で地域密着型のサービスが展開されている。自治体運営の強みとして行政、医療(町立病院)との連携に優れ施設移行やサービス移行も円滑、また災害時や緊急時の協力体制も整っており利用者家族からの信頼も厚い。訪問時はリビングで利用者と職員が朗らかに談笑、利用者の活発な暮らしが伺われた。管理者はじめ職員は利用者のこれまでの暮らしを尊重しホームでの生活も本人主体となるよう、敬意を持って寄り添うことが徹底されている。敷地内の菜園作り、毎日の炊事・洗濯や掃除の家事は職員と家族のように会話をしながら一人ひとりが役割を持って出来ることを継続している。利用者が尊厳を保ち自分らしく生きがいを感じながら暮らしてもらえるよう支援が続けられているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:19,20)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:8,9,15)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:14)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,16)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:19)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57 職員は、生き活きと働いている(参考項目:10)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を詰所から見える範囲に掲げ常に心掛けており、代表者・管理者・職員が一体となり、より良いサービスの向上に繋がるように努力している。	基本理念に掲げられている「人権尊重・家庭的・いきがい」は、管理者はじめ職員の聴き取りからも支援の骨子となっており具体的な実践の細部にゆきとどいている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は夕涼み会、盆踊り会、敬老会等の地域の行事に参加していたが、コロナ禍になってからは全く行えていない。	コロナ禍で地域の行事等は見送られていたが、ケアセンターが複合的サービス拠点の性質上地域との繋がりは密接である。ホーム入居者、センター利用者、職員、近隣住民は地縁血縁の関係も少なくはなく、利用者は地域の一員として日常的な交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議等で、認知症の症状や対応方法等の説明を行い、地域の方の認知症への理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、現在の状況や取り組み等を伝え、参加された方々からの意見や考えを伺いながら、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は書面開催ではなく感染防止配慮の上現場開催されている。詳細なホーム現状報告、活動状況等議事録資料も確認できた。また家族、地域住民、行政職員から率直な意見を伺いホームのサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自治体の運営であることから、拠点の高瀬ケアセンターで密接な関わりを持ち、常に連携を取りながらサービスの向上に繋がるように努めている。	町運営の事業所、ケアセンターに町職員が配属されており行政との連携は密、良好な協力関係にあり利用者家族の信頼も厚い。コロナ禍の感染症対策でも迅速な対応や職員間の応援体制等に町との連携が活かされた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会を発足し、担当職員がオンライン研修に参加している。研修内容を会議の場やテキスト等で他職員にも周知している。	各関係マニュアルが整備されており、新任職員研修、年2回の職員研修が実施されている。施錠しない方針であり、一人で外に出られた利用者のヒヤリハット事案では対応策の検討がされ、利用者の気持ちにより添う支援が確認されている。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して対象となる方がいない為、熟知している職員と知識が浅い職員との差がある。必要な制度があれば、積極的に関係者と連携し活用したい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に理念やサービス内容、個人情報の取り扱いなどについての説明を丁寧に行い、理解や納得を得るように心掛けている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	利用者の方とは、日々の生活の中で信頼関係を築き、意見や要望を出しやすい雰囲気作りを務めている。家族に対しても、面会時や電話連絡にて情報交換を行い、意見や要望を聴く機会を設けている。	日頃から利用者家族とこまめに連絡を取り合い要望や意見等を伺っている。利用者本人も職員との毎日の会話で献立や余暇活動等の希望を伝え実際に希望はかなえられている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	職員会議や個人面談で職員の意見や提案を聴き、運営者とも意見交換をするなどして業務に反映させている。	職員の管理者への信頼は厚くなんでも相談しやすい環境にあり、業務の提案や勤務の希望を伝え考慮してもらっているとのこと。サービス向上に向け職員の自発的な取り組みが推奨される関係性という事も職員の聴き取りから確認できた。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で、現在は勉強会や意見交換の場への参加はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、生活する上での意向や要望を確認している。コロナ禍で、自由に施設内を見学してもらうのは難しいが、撮影した画像などを用いて説明し、納得した上で安心してサービスが受けられるようにしている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談を行い、家族の思いや要望を伺い、安心してサービスが受けられるように信頼関係を築く努力をしている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方は、人生における先輩であるとの敬意をはらい、共に協力し支えあえる関係性を構築できるように努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、面会時や電話連絡、やまびこ便りにてご本人の近況をご報告し、情報の共有を図ることで信頼関係の構築に努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	コロナ禍で、面接に関しては規制がかかる場合も出てくるが、オンラインや電話でのやり取りで会話を楽しんで頂き、できる限り関係が途切れないように努めている。	コロナ禍の影響で面会や外出の機会は少なくなったが、電話やビデオ通話で家族や友人とよく話ができている。顔見知りの地域の方が山菜や野菜など持ち寄ってくれる等地元との交流は途切れず続いている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、職員も交わりながら共同作業やレクリエーションを通じて、互いに関わり合い持てる関係づくりを支援している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去決定後も、ご家族が希望した場合は相談を受けたり、必要に応じて受け入れ先を探すなど支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向を伺い、またご家族からの情報やアセスメント、日々の関りの中でご本人の表情や言動にも注視し、希望意向を組取れるように努力している。	毎日の本人との会話の中からその方の希望や意向をくみとり日々の支援を行っている。表情や仕草など言語化されない情報も大切に、全職員が利用者主体の生活提供を心がけている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からのアセスメントや支援記録で得た情報を職員全員に周知、し共有してサービスの提供に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	職員会議や日々の勤務の中で、職員同士の気付きやご本人の様子を情報交換している。ご家族の面会時や電話連絡、または受診時に情報交換を行い、計画に反映させるように務めている。	居室担当者が支援経過報告をまとめ担当者会議で本人、家族、医療等関係者からの情報を参考に話し合いをし計画作成者が個別支援計画を作成している。職員の連絡ノートを確認したが職員間の情報共有が詳細で密、利用者の現状が反映された支援の実践が行われている。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を具体的に日誌やケース記録に記載し、情報を共有している。また、気付いたことがあれば連絡帳にも記入し、職員間で意見を募るなど実践に生かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の行事への参加や、ボランティアの受け入れ等は見合わせているが、かかりつけ医や歯科医等の活用で、安全に生活できるように支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿った形での受診・往診の支援を行っている。日々の様子が詳しく伝えられるように口頭だけではなく、書面による情報の提供も行っている。	町立の協力病院と連携、利用者は入居前から継続し受診通院している。ケアセンター内の特別養護老人ホームへ医師・歯科医師の往診もあるため、必要に応じホーム利用者の相談ができる関係を築いている。ケアセンター内には数名の看護師が常勤しているので随時判断を仰ぎ医療機関へ繋げることも出来る。夜間のオンコール体制も利用者家族には安心である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	人員基準での看護師の配置はないが、利用者の急変時や受診判断の際は、棟続きの特養の看護師の支援や指示を受けられるようにしている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は定期的に訪問を行い、病院関係者と情報交換や相談を行っている。また、ムンテラの際にはご家族とともに管理者が参加している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所では看取り対応はしておらず、終末期では病院での看取りとなる。その際にご本人、ご家族の心情に寄り添うケアを心掛けている。	地域で暮らしていた方々が他サービス等の段階を経て現在のホームに入居している。ホームで看取りは行っていないが、複合施設には特別養護老人ホームもあり、状態の変化に応じて本人家族と話し合いながら施設移行も円滑に行われている。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の代表者や管理者へのオンコール体制が整っており、他事業所や職員への連絡順位も確立されている。ただ、職員間での応急処置や初期対応に個人差があり、定期的な実践訓練の必要性がある。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全事業所合同の訓練に参加しており、近隣住民の参加協力も得ている。また、災害時は地域の避難場所として、高瀬ケアセンターが指定されている。	消防署員立ち会いのもと事業所合同の避難訓練を実施し、近隣住民やケアセンター全体の協力体制が出来ており利用者や家族にも安心である。センター内の連携が密で、他部署とは応援体制が築かれている。そのため、他部署職員であっても日頃からホーム利用者との交流があり、強みの一つとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう個々に合わせ、場所や声のトーン、さりげない言葉掛けに注意して支援している。	一人ひとりのその人らしい暮らしを尊重し継続していただくよう支援している。家族のように親身に接し相手を敬う気持ちは言葉遣いにあらわれる。個人情報等プライバシーに関する事項には職員は十分に配慮し支援している。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月毎に出張理容を依頼している。髭剃り、爪切り、耳掃除は定期的に行っている。衣類はご本人が選んでいただけるように声掛けし、季節やその場に適した服を着用できるように支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みを把握し、味付けや彩り、食べやすい調理に配慮している。また、個々の力に応じて職員と一緒に下ごしらえ、味付け、下膳、盛り付け、片付け等をして頂けるように支援している。	利用者との毎日の会話から希望を聴き献立を考え食事を賄っている。畑で作った野菜や家族や近隣から頂いた山菜等地域の食材を中心に利用者も料理を手伝い配膳、片付けも行っている。自宅ですてきた家事を継続し一人ひとりが暮らしの中でそれぞれの役割を果たすことを大切にしている。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では、ケアセンターの栄養士に相談の上で献立を作成している。必要に応じて個々の水分量を記録し、脱水の予防を行っている。また、本人の嗜好に合わせた飲み物を選定して提供している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた声掛け、誘導、介助を行っている。就寝前には義肢を外して頂き、ポリデント洗浄をし、口腔内の清潔保持に努めている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄表を使用し、個々の排泄パターンを把握共有し、トイレ誘導を行っている。排泄介助はご自分でできることは行って頂き、自立支援を心がけている。	居室2部屋に一つの割合でトイレがある。居室からトイレが近くゆっくり排泄できる。職員は個々の排泄パターンを把握し、その日その日の排泄状況も共有し利用者の排泄の自立支援に繋げている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排泄ができるよう、水分補給や体操、乳製品の提供をしている。便秘傾向の方にはかかりつけ医に相談し、内服薬や座薬での対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴するタイミングは、個々の体調や希望を考慮し、希望に添えるように努めている。入浴中は楽しんで頂けるように、お話し好きの方にはお話をし、ゆっくりと入浴されたい方には静かに見守りをしている。	入浴は個々の希望に添いながら体調によっては看護師と相談し行っている。入浴剤を選んでもらったり会話をしたりしながら入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や就寝リズムに合わせて促している。安心して気持ちよく眠れるように、事前に部屋の温度調節・カーテンなど就寝環境を整えている。不眠時にはお茶などを一緒に飲み、お話を伺い安心されるように対応している。		
39		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を通院記録の個人ファイルに保管し、内容をすぐに把握できるようにしている。服薬困難な方には、主治医に相談し散剤や貼り薬などに変更したり、トロミを使用し内服しやすいように工夫している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力を見極め、生活歴などを把握しながら食事の後片づけ、洗濯干しやたたみ、調理の手伝いや、趣味の散歩、読書、歌番組の鑑賞など、役割や楽しみ、気分転換の支援を行っている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、施設外への外出は控えている。敷地内では、施設の外周を散歩ができるようになっており、天気の良い日は田園や山々の四季の移ろいを感じながら散策を楽しまれている。	コロナ禍以前は年間行事外出の他、食材や日用品の買物に出かけていたが、現在は施設周辺の散策等に限られている。施設の畑の世話など戸外に出る活動は日常的に行っている。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお小遣いを管理しており、いつでも買い物ができるように支援している。それとは別に、本人希望で少額の金銭を自己管理され、面会時にお孫さんにお小遣いを渡される方もいる。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの空間には、季節を感じられるような草花を置いたり飾りつけを施している。室内の温度、湿度、光量などを調整し居心地の良くよく過ごして頂けるように工夫している。	ホームは高齢者に馴染みの和風の意匠、広い廊下には寛げるようにソファが幾つか置かれている。随所に利用者の創作作品や写真が飾られ季節感や生活感のある家庭的な雰囲気醸している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性や個人の体調等を把握し、座席の変更を行っている。テレビ前や廊下にもソファを設置し、気の合う利用者同士で会話を楽しんだり、ゆっくりと過ごせる空間を整える配慮をしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた寝具や家具、好みの物や思い出のある物を持ってきてもらい、居心地よく安心して生活できるように支援している。	居室は9室中7室が畳敷きの和室の設え、押入れや障子、天井照明など自宅にいるような雰囲気や落ち着いた調度や家族写真、アルバムなどを持ち込み、本人が余暇時間で創作した作品を飾るなど、温かで居心地の良い部屋になっている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、必要箇所には手すりを設置している。また、個々に応じては、自身の居室やトイレがわかるように表示をするなどの対応をしている。		